

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0792600041 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 両沼厚生会 | | |
| 事業所名 | グループホーム結和 | | |
| 所在地 | 福島県河沼郡会津坂下町字中岩田91番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年11月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年3月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年1月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「よく話を聞いて優しく接します」「おいしく物が食べられるよう努めます」「今までの趣味が続けられるよう支援します」「住み慣れた地域で楽しみながら生活できるよう支援していきます」4つの基本理念を中心に、自分だったらどうして欲しいか利用者の立場で物事を考え対応していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業運営に関する自己評価や外部評価を通じて改善点を明確化し、その方策について運営推進会議の各方面の代表者と活発な意見交換を行い、会議メンバーから提案されたアドバイスを即時事業所の運営に反映させている。
2. 生活感や季節感を取り入れ居心地よく過ごせるような工夫がなされ、いつも笑いの絶えない明るい雰囲気活き活きとした生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者と職員全員で理念を作成し、玄関に掲げている。入社時に各自確認し、理念に基づいた対応ができるよう心掛けている。意識が薄れないよう会議で再確認を行っている。また、理念の見直しを実施している。 | 地域密着型サービスの意義や役割を全職員で確認し、地域における継続支援を重視した理念を大切にしている。また、ミーティングでは、理念の実践について全職員で話し合い、具体的な行動指針について掘り下げて意識の統一を図っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し町内の行事などにも参加している。また、運営推進会議で相談し地域の行事には積極的に参加している。 | 町内会に加入し、文化祭やお祭り、婦人会や老人会、自治会等が集うバーベキュー大会等、積極的に地域の行事に参加し、地域との交流を図っている。また、運営推進会議では、地域住民の方に事業所のイベントへ参加してもらえよう、会議メンバーから意見をいただき企画をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や保育所との交流会など地域との交流を活かし、認知症の理解をしてもらえるよう取り組んでいる。他に要請があればいつでも応じることができる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 地域の方に委員として参加して頂き、町内の行事を教えてもらったりしている。また、情報を公表して意見やアドバイスを頂いている。 | 運営推進会議では、事業所の運営状況や課題について報告し、課題解決に向けた意見交換や情報交換を行っている。また、会議メンバーからアドバイスがあった場合は、即時事業所の運営に反映させている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進委員として町の担当職員や地域包括支援センターの職員にも参加してもらっており、意見やアドバイスを頂いている。町の担当職員にも毎回出席してもらっており、街の状況なども教えてもらっている。 | 町の担当職員に運営推進会議に参加してもらい、事業所の運営状況や課題等について積極的に情報提供し、事業所の課題解決に向けた協力関係を構築するよう取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての内部研修を行い、職員全体で理解できるよう取り組んでいる。また、行動の拘束についても行わないよう努めている。また、予測されるリスクについて家族と相談している。 | 2ヶ月に1回のサイクルで、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を全職員が持ち回りで講師を担当し、身体拘束をしないケアについて職員の共有認識を図っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部研修にて何が虐待にあたるのかなど理解を深めるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者や一部の職員は成年後見制度を活用されている方と関わった経験がある。勉強会を行い必要時に支援できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に重要事項説明書などを用いて説明し、理解納得して頂いたうえで契約締結している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議にご利用者様やご家族様に出席して頂き意見をいただいている。その意見を職員間での会議に反映している。 | ご家族には運営推進会議の出席やかかりつ医への通院時の際、常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された要望や意見については、毎月の定例会や日々のミーティングで話し合い、運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 申し送りの際に随時意見を出してもらい、管理者も含めた職員間で対応など検討している。その他、定例会議にて問題点など話し合いをしている。また、必要に応じて代表者に報告している。 | 毎月の定例会の中で職員の要望や意見・提案等を聞くようにしている。また、日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、何でも相談できるような雰囲気づくりに配慮している。出された要望や意見については、出来る限り運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 休暇の希望を反映させた勤務表作成に努めている。また、勤務状況を把握するため定期的に代表者が現場に出向いている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的な法人内の研修や職員に合わせた外部研修にも参加させるように努めている。また、職員に内部研修を行ってもらっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | GH連絡協議会に加入し研修会等参加している。交換研修を行ったり積極的にグループワークのある研修に参加し、他施設との交流を心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に本人家族や関係者からの情報を基に、不安に対しての説明を行っている。入居時は特に本人の言葉に耳を傾け些細な変化を見逃さないように職員で協力し合い対応している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約説明時などご家族の不安や要望を聞き、入居後の支援に反映できるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居相談の時点で話を聞き、必要があれば他施設等の紹介なども行っている。担当ケアマネージャーに連絡したり、無理のないサービス提供に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事全般において能力に応じたことを一緒に行っている。畑仕事や地域的な風習など職員と入居者で協力して行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や電話、毎月の状況報告で現在の状況について伝え、情報交換に努めている。受診等家族の協力を得、本人と家族の絆が切れぬよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで利用してきた美容室の利用やかかりつけ医の受診を継続して頂いている。また、家族の協力により外出や外泊などもできている。 | 昔から利用している美容院の利用、かかりつけ医の受診や馴染みの場所への外出ができるよう、家族の協力を仰ぎながら馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 認知症状や性格、行動を把握しその人らしい生活できるよう努めている。利用者同士、お互いに助け合える人間関係を築けるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設に情報提供を行い、他施設に移られた後も面会に伺っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常的な言葉や関わりから希望や意向の把握に努めている。また、モニタリングやケアプランの見直しなどその都度意向に沿えるよう取り組んでいる。 | 日々の生活の中での「声掛け」をし、利用者の言葉や表情などから、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な場合は、ご家族から情報を得るようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に情報収集だけでなく、入居後も会話や行動の中などから継続した情報収集に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の個別ケアができるよう努めている。また、職員間での情報共有ができるよう申し送りの徹底を図っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリングにて本人家族の要望を次回のプランに反映させている。プランについては定例会議にて情報を共有している。 | 利用者やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意向を確認し介護計画に反映させている。また、全職員でモニタリングを行い、現状に即した介護計画の見直しを図っている。 | 見直された介護計画は定例の職員会議において情報共有が図られているが、常に各々の職員が介護計画書を必要の都度、見られるよう環境作りを工夫してほしい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録や申し送りノートを活用により情報の共有を徹底している。業務や対応等について毎月の定例会議にて見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 一人一人のニーズに対応して、気分転換を兼ねての外出等を行っている。天候や体調に応じての活動等、臨機応変に対応を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の職業体験の受け入れや交流会、町内行事や祭りへ参加、豊かで楽しみある暮らしができるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 今までのかかりつけ医を大切に、データや状況報告等持参して頂いている。状況によっては職員同行し適切な医療が受けられるよう支援している。 | 本人やご家族が希望するかかりつけ医を受診している。基本的には家族が同行し受診しているが、不可能な場合は職員が同行し支援している。受診結果は家族に電話で報告し、申し送り簿に状況を記入し、職員相互での情報共有を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調不良やバイタル異常等があった時には隣接の同法人の看護師に連絡しその都度対応して頂いている。また、通常の状態も把握できるよう隣接施設との交流を図っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には情報提供を行い、入院中も面会に伺ったりMSWや家族と連絡を取り合っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状態の変化などは家族へ報告し、必要に応じて受診等依頼している。重度化や終末期に向けて方向性を説明し、家族の同意を得ている。 | 重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての対応基本方針を策定し、利用者のご家族へ対し、事業所が対応し得る最大のケアの説明を行い、同意を得ている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応のマニュアルはいつでも目を通せるようにしている。また、緊急時の持ち物をすぐに持ち出せるよう準備している。夜間緊急時の職員の協力体制も整っている。普通救命の講習も受講している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月避難訓練を実施している。火災や地震、日中と夜間想定や通報訓練など計画を立て実施している。消防署立会いでの訓練も実施している。 | 前年までは、消防署立会いの総合訓練は実施していなかったが、今回、消防署の協力を得て総合訓練を実施している。また、事業所単独での防災避難訓練は、年間計画に基づいて、月1回、通報避難や夜間想定、非常用セットの確認等の訓練を実施している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 認知症の程度や生活歴、性格など把握した上で一人の人間として受け入れるよう心掛けている。また、その人に応じて声掛けの内容など考え実施している。 | 個人情報の規定を文書化し、利用者の入居時に同意を得ている。管理者は、守るべき利用者の情報が漏えいしないよう、職員の定例会で周知し、利用者の尊厳の維持とプライバシー保護を心掛けて対応している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中でその人の能力に応じて選択肢を提示し、自己決定の機会を作るようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活の中で生活リズムが崩れない程度に気分や体調に応じた生活ができるよう対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 外出の際に化粧をしたり衣類を選んだり、おしゃれを楽しんでもらえるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 買物や調理や片づけなど無理のない範囲で一緒に行い、食事の際も会話を楽しくして頂けるようにしている。また、季節の食材や行事食など楽しめるよう検討して対応を行っている。 | 利用者の出来る方をお願いをし、職員と共に食材の買い出しや調理、盛り付け、後片付けなど行っている。L字型テーブルを囲んで利用者と職員は一緒に食事をし、楽しく食事ができるような雰囲気づくりを大切にしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分摂取量は毎食ごとに記入している。また、バランスのとれた食事ができるよう栄養の内部研修を実施したり、栄養士に確認・指導を行ってもらっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後口腔ケアの声掛けや見守りを行っている。就寝時には義歯の洗浄を行い口腔内の清潔を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄能力に応じたケアができるよう努めている。紙パンツ等の使用については、状況を伝え家族とも相談のもとで行っている。また、排泄チェックを行いトイレでの排泄ができるよう努めている。 | 排泄のチェック表から、一人ひとりのパターンをつかみ、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄の自立により問題行動が治まった利用者もあり、排泄の自立支援の効果が現れている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便のチェックを行っている。水分摂取量や食物繊維の摂取などに注意している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 毎日入浴できるよう準備しており、本人の希望やタイミングに合わせて入浴して頂いている。夕方からの入浴を行っている。 | 毎日夕方から入浴が出来るよう、体制を整えている。職員は利用者の状況に応じてシャンプーや洗浄を支援し、利用者の力を見守る工夫をしている。入浴を拒む利用者もなく入浴を楽しむことができる支援を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調や気分に合わせて好きな場所で休息して頂いている。夜間安眠できるように日中の活動量の確保などに努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の変更など日誌や申し送りに記入し職員全員が把握できるようにしている。一人一人の薬について把握して対応できるよう心掛けている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人の能力を活かし自分の役割を持って頂いている。外出等の楽しみ事を計画したり気分転換が図れるような対応をしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や買い物や外出など希望を聞きながら行っている。家族の協力を得、自宅への外出・外泊なども行っている。 | 日常的に隣接する同法人のデイサービスへ散歩がてら立ち寄ったり、買い物などに出かけている。また、ご家族の協力のもとお正月に外泊するなど、一人ひとりの希望に沿って、戸外に外出できるよう支援に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一緒に買い物を行っている。近所の商店でいつでもお金を使った買い物ができるよう体制を整えている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時に電話ができるよう支援している。携帯電話を持参されている方もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間は季節に合わせた花や掲示物など飾り四季を感じてもらえるようにしている。 | 共用空間は利用者の作品を掲示したり、一人ひとりの時間の過ごし方を考慮し、最適な場所にソファを設置するなど居心地よく過ごせるよう工夫をしている。また、加湿器や温度の調節、手すりや換気扇の消毒などの配慮がなされ、安心な日々が送れるよう支援している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 和室やホールのソファ、キッチンのカウンターなど、その時の気分や体調で自由に利用して頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている | ご家族の写真やなじみの物を持参して頂き、その人らしく過ごせるよう支援している。一緒に日々の清掃も行い清潔保持に努めている。 | 家族写真や家族からのプレゼント、テレビや小型冷蔵庫など、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮している。また、室内の蛍光灯には綺麗な布でカバーして光を押え、優しい雰囲気、心落ち着く工夫を施している。居室の掃除は、管理者の「残っている機能を充分動かす」をモットーに利用者や職員で行い、清潔な部屋を保持している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりを全体的に設置しており、歩行器や車いすでも移動できるスペースとなっている。調理や植木の手入れなど一緒に行って頂ける環境を作っている。 | | |